

○ ミート・コンパニオン、アドバンスフーズ、双日食料が業務提携
競争力のある原料を使用し、相互の技術力を生かした食肉加工品を提供

株式会社 Meat-Companion  株式会社アドバンスフーズ  大した。
ミート・コンパニオン

(東京都立川市、阿部昌史社長)と、
(株)アドバンスフーズ(千葉県栄町、鈴木正人社長)、双日食料(株)(東京都港区、曾我英俊社長)は3社による業務提携を結んだ。ミート・コンパニオンとアドバンスフーズ相互の高度かつ特殊な冷凍加工および加熱加工技術力を生かし、より競争力のある畜肉一次加工品や加熱加工品を開発・製造、外食事業者などに提供していく。この2社を支える形で双日食料はグローバルな調達網を生かし、競争力のある原料を両社に供給する方針だ。

業務提携は3月1日付で締結し、共同で新商品の開発のための企画・研究などを行う。1977年創業のアドバンスフーズは、業務用食品卸・加工食肉の製造を手掛けており、取引先のオーダーはもちろん、独自のアイデア、商品分析を通じてスライスやポーション、ダイスカットなどさまざまな一次加工品の企画・開発をワンストップで提供することを得意としている。とくに、昨年10月からは加熱加工品の製造工場が新たに稼働したことで、よりさまざまなニーズに対応することが可能となり、生産キャパも拡



パニオンとしても、関東および東北・北陸に合計5カ所の加工工場を所有しているが、外食チェーンや弁当・総菜チェーン、CVS向けに商品を提供するフードサービス事業など業容が拡大するなかで、今後、さらなる伸長が見込まれる畜肉加工品のニーズに対応するためには、OEMを含めた製造キャパを高める必要があった。

そこで、今回の業務提携により、ミート・コンパニオンとアドバンスフーズは長年培ってきた技術力やノウハウ、得意分野を相互に発揮、双日食料がその高い原料調達力を発揮して、北米産牛肉や北米・欧州産豚肉などを中心とした原料を提供する。この3社の連携を通じてより競争力のある食肉加工品を顧客に届けていく方針だ。

とくに特殊な技術力を持つアドバンスフーズにとって今回の業務提携は、昨年2月設立の畜産関連事業を展開する、(株)ミートワン(東京都港区、池本俊紀社長)と協業する契機につながることも期待できそうだ。